

【ねがいましては】

令和6年3月23日

KYOWA SCHOOL

第407号

「ある少女の失望」

ある日の朝刊内《人生案内》です。「15歳女子 醜い社会に失望」という題です。

— 15歳の女子中学生。生きることに疲れました。中高一貫校に通い、充実した学校生活を送っていますが、最近、漠然と社会に疲れを感じ、自分に失望しています。誰かを蹴落としたり、良好にみえる人間関係もうわべだけだったり、人を信用できない世の中。(中略) 人間は醜く、存在してはいけないと感じるようになりました。— (本文より抜粋)

学校と家との往復という日常、ある日、ふと歩みを止め、鏡に映る自らの目線を足もとから正面へと馳せた時、今までの自分に中にあった「何うことのなかった社会像」への違和感に強い衝撃を受けたのでしょうか。「まさかここまで醜いとは」が率直な感想だと思います。この先私はこのような社会の中でもまれていくことになる。それは彼女にとって生きることを「失望感一色」にしてしまったようです。

『誰かを蹴落としたり』とあります。その通りです。学校社会の中には『順位』という蹴落としを単純に感じることでできる素材が常駐しています。それをどう感じるかは人それぞれです。感受性の高い子であれば、蹴落とすという語彙はわりと早い段階で抱くようになると思います。日常では『親友』とか『思いやり』とか、「ひととして生まれてきてよかったね。」と、思わせるものが安心感を宿らせてくれます。しかし、なのです。彼女の中に生まれたものが、『良好にみえる人間関係もうわべだけだったり』です。敏感に感じ取っています。私はこの子はきわめて正常だと思います。『染まっていない』と思います。

最後にこう結びます。— 人間は醜く、存在してはいけないと感じるようになりました。(中略) どうしたら社会の残酷で汚い部分を気にせず、楽観的に生きられますか— と、結びます。

しっかりしたお子さんだと思いました。この子の場合、楽観性をこれからの自分の歩むべき道として結んでいます。

私は申し上げたい。「自らが正しいと思うことに真正面から立ち向かってみようよ。倒されても倒されても立ち上がり、また立ち上がり、その向こうに同じように強風に正面から立ち向かおうとしている人に出会うことを夢見ながら……。楽観的に物事をとらえられることは、たしかにここは楽になる。でも、あなたのような苦しみに立ち向かい続ける人に出会ったとき、きっと「シマッタ」と後悔が生まれてしまうかもしれないと……。

この醜い社会をなんとか良くしていこうと日々歩んでいらっしゃる方々がいることをこのころのどこかに置いていただきたいのです。

先日、緒方貞子さんを取り上げた番組に出会いました。誰が見ても「えっ」と思うような小柄な女性です。その方が自ら防弾チョッキを身につけ、現地へ赴き、打ちひしがれた方々に笑顔で接しておられる姿に感動を覚えました。さらに、それがきっかけで、その後、現地(ルワンダ等)で生まれた子供の名に「オガタサダコ」と名前をつける方が多くいらっしやったこと。時が過ぎ、再び現地へ赴いた緒方さんが「オガタサダコ」とたちと抱擁する姿はまさに「ひと」でした。「世の中、まんざらでもないぞ！ 向かい風に真正面から立ち向かおうとされる方はけっこういらっしやるぞ！ 一緒に歩もう！」と、声をかけてあげたい気持ちになりました。

私は今の教育制度が子どもたちに大きな傷を作りかねない危険を抱えていることを、この【ねがいましては】の中で幾度も書かせていただいています。教職に就く先生たちも必死です。子どもたちも必死です。もちろんそれを見つめるご両親も必死です。そしてこの記事の15歳さんも……。何がこのように多くの苦しみを作り出しているのか……。

「制度」です。その制度についていけない子は負けた子・悪い子・弱い子・劣等生というレッテルを必然的に貼られ、その制度を見事乗り越えた(合格した)子には勝者としてのレッテルを作り出す。私はその子たちには安定生活(高所得)が保障されるだろうという誰もが抱きがちな方程式を修正する必要があると思っています。

高所得は本当に「しあわせ」なのか？ たしかにつながりやすいというイメージはどなたの中にもあるはずです。億ションに住むことができる。高級外国車を乗り回せる。海外旅行も毎年のように行ける。などなど、豊かさを感じることでできる体験が多く待っています。これって周りばかりを気にしすぎていませんか。比べすぎていませんか。この「比べる」という行為、自然にくっついてしまうようです。赤ちゃん時代に、幼児時代に、比べるってあまりしていないはずですよ。ではいつごろから……。それが先ほどの「制度」に結びつくことになります。始めに書かせていただいた、この少女のいうところの「誰かを蹴落としたり」です。

テストで蹴落とす。順位で蹴落とす。やがて給与で蹴落とす。役職で蹴落とす。ライフスタイルで蹴落とす。何でもかんでも比べっこ……。

ひとは人、他人は他人、今の自分をそっと見つめて、「いやー、きょうのご飯もおいしいなあ。お腹がへるっていいなあ」「いやー、きょうも我が子のすやすや眠る顔を見ることができた。ありがとう」

最後にアドラーさんの名言より一文、「子供は愛情を感じなければ成長しない」

「欲」という親の身勝手な「犯罪」をお子さんに押し付けてはいませんか。15歳さん、味方はここにいるからね。